午後Ⅱ試験 Q & A

ここでは，筆者が開催している講座の受講生からよく受ける質問とその回答を紹介する。

Q1. 論文の字が汚いと読んでもらえないと聞いたのですが，本当ですか？

読んでもらえないということはありませんが，「字はできる限り丁寧に」書きましょう。きれいな字は説得力がありますし，内容が正しく見えます。これは採点している側に立つとよく分かります。特に午後Ⅰの記述式や午後Ⅱ論述式の解答では，同じような内容であっても，字によって点数に差が出てくると考えておいてください。過去の経験では，次のようなケースもありました。

①講座内では常に良い内容の論文を書いていた受講生が，本番試験で落ちた。気になるところは，字が汚かった
②公開模擬試験でも，字の上手な人ほど高得点になっている

実際，旧アプリケーションエンジニア（現システムアーキテクト）試験の平成19年度と平成20年度の採点講評では，次のように指摘しています。

> 記述の乱雑なものや誤字脱字が目立つもの，論述内容が理解しづらいものがあった。このような論述では，受験者の能力や経験を正しく読み取れない場合もあり得るので，ぜひ留意してもらいたい。

プロジェクトマネージャ試験でも，平成31年度の午後Ⅱの採点講評で，次のように指摘されています。

> また，誤字が多く分かりにくかったり，字数が少なくて経験や考えを十分に表現できていなかったりする論述も目立った。（中略）正確でわかりやすい論述を心掛けてほしい。

以上より，できる限りきれいな答案を心がけた方がいいのは間違いありません。論文の場合だと，少なくとも（採点者が読み始めにあたる）設問アだけでも丁寧に書いた方がいいでしょう。そうして徐々にスピードアップしていく分には，読み手の“慣れ”も入るので大丈夫でしょう。

Q2. プロジェクト管理が未経験です。どのようにコンテンツを集めればよいでしょうか？

未経験者の場合，定量的表現をすることや臨場感を表現することを考えれば，合格が少々厳しいのは事実です。しかし，資格はあくまでも知識の有無を評価するものであって，経験を認定するものではありませんから，十分準備することで合格は不可能ではありません。

コンテンツに関しては，まずは午後Ⅰの問題が使えないかを考えましょう。各章に，午後Ⅰと午後Ⅱの対応表を用意しているのでそこから考えましょう。他には最近よく書店で見かける，プロジェクトマネージャを主人公にした書籍を読むというのも有効。他には先輩や上司に話を聞いたり同じ視点でプロジェクトを見たりするのも効果的です。

Q3. 自分は嘘を書くのが嫌です。未経験と書いたらダメなのでしょうか？

結論から言うとダメでした。実際に筆者が平成 28 年の IT サービスマネージャ試験で試してみました。未経験を宣言して，まさに「自分の経験と知識に基づいて」書いてみたのです。具体的にはこんな感じで書き始めました。

> 「私には，その経験はまだない。そこで，過去の比較的よく似た事例をベースにして『あの時，・・・が・・・という事態になっていたとしたら』と仮定して，今の知識に基づいて具体的に書いていきたいと思う。」

結果は，見事に D 評価でした。過去，論文系の試験は午前，午後Ⅰで不合格になったことはありますが，午後Ⅱ（論述式）で A 評価以外取ったことがありません。22 連勝中（22 勝無敗）でした（試験対策をやっている立場なので当然ですが）。それが D 評価です。「出題の要求から著しく逸脱している」という評価。理由は明白です。それ以外は 22 連勝中の通りに書きましたから。

したがって，合格したければ，経験していようが，未経験であろうが，自分が経験したこととして論文を書き上げるようにしましょう。詳細は筆者のブログに書いています。平成 28 年秋試験の前日（2015-10-17）のブログと，合格発表当日（2015-12-18）のブログです。興味のある方は覗いてみて下さい。

Q4. 論文の中に，どのように知識を入れていけばよいのかが難しい。コツはありませんか？

確かに，問題によって知識のアピールの仕方は異なります。基本的には，問題文の中に登場している言葉を，一般論としてさりげなく使うのが最も簡単な方法になります（この方法は，問題文で問われている内容から，乖離しないようにするために，非常に有効な手段です）。

また，レビューについて記述するなら「レビューにはインスペクションとウォークスルーがあり，……」というように，本書の重要キーワードの中に出てくる基本用語を織り交ぜるとよいでしょう。

ただし，知識はさらっと 1，2 行程度で表現するのが理想で，長くなりすぎると用語解説のようになってしまい，本末転倒になります。さりげなくさらっと表現することを心がけてください。

Q5. 論文の中で，具体的数値を入れるところが難しい。コツはありませんか？

具体的数値は，「経験」または，「知識を基にした想像力」からしか表現できません。過去の合格者からの声を聞いても，必須というわけではありません。なくても合格できています。だからこそ，逆に具体的数値を入れることができたら，ほかの人を一歩引き離せることになります。

そのあたり，サンプル論文を参考にしながら，そのレベルをつかんでください。どのような具体的数値がどこに入るのかはケースごとに異なりますから，一概には言えませんが，作文表現をイメージしていただくと分かりやすいと思います。

Q6. 午後Ⅱ問題で，採点が厳しい分野とか，あまり選択してはいけない問題というのはあるのでしょうか？

講座ではよく申し上げていますが，「問題と設問に対して，正確に答えていくこと」が合格のポイントになります。そのため，採点の厳しい分野などは問題によって偏りがありませんが，「選択してはいけない問題」はあります。それは，各段落の論述イメージをシミュレーションしたときに，書けない段落の存在する問題です。

Q7. コンテンツを充実させるためには，やはりサンプル論文などを，あらかじめ材料を作ってから，自分で書く練習をした方がよいのでしょうか？

「書く練習」と「コンテンツ準備」は別物だと考えています。書く練習は，2時間で書くための練習ですから，いったんスキルが身につけばそうそう書けなくなることはありません。自分の文章の表現パターンが固まってきて，どのような問題でも，コンスタントに2,800字程度書けるようになったら，書く練習はもうほとんどいらないでしょう。

これとは別に「コンテンツ準備」は必要になります。過去問題に対して，各段落単位で，書く材料をそろえて（整理して）いきましょう。

Q8.「コンテンツ準備」についてですが，コンテンツの収集単位，キーワードなどがあれば教えてください

コンテンツの収集単位は，各章の「過去に出題された午後Ⅱ問題」にまとめています。それぞれ何パターンか切り口がありますから，その単位で準備しておけばよいでしょう。

Q9. 論文の中に図表を埋め込んでも問題ありませんか？

筆者が平成18年度の試験を実際に受験して試してきました。それを再現したのが平成18年度 午後Ⅱ 問2のサンプル論文です。内容も基本に忠実に書いただけですから，それほど高度なものではありません。字数は，一応図表を加味して多めにしていますが，特に問題もなく合格しました。最近でこそ，サンプル論文は図表がないものばかりですが，筆者は，平成13年までに受験した論文試験では，いつも一つもしくは二つの図表を入れていましたが，それで不合格になったことはありません。分かりやすくなりますし，汚くならない限り大丈夫でしょう。ただし，表のように線を引くときは，必ず定規を使いましょう。それは最低限のマナーです。